

水泳部と私  
—心地よい場所—

グループ K 石橋克幸（いしばしかつゆき）

## 1.水泳部の紹介

私が大切にしているコミュニティは、水泳部です。私は高校から水泳を始め、大学の水泳部に入部し活動しています。全学と医学部と一緒に活動しており部員数は80人を超え、各自の目標に向けて日々練習に励んでいます。また、練習以外にもいろいろな行事があり、遠征などで他大学との交流もできる、とても楽しい部活です。

水泳を続けようと考え大学でも水泳部に入部したわけですが、今回水泳部を大切なコミュニティに挙げた理由は、人とのつながりを感じられる場所だと感じているからです。水泳部は他学科、他学年の人との交流ができ、また人数も多いのでいろいろな友人ができます。どんな講義を受けても必ず誰かが同じ講義を受けているというくらいになります。またその中には、いろんな性格の人がいて、私を飽きさせません。好きなものや嫌いなもの、夢や目標、価値観など人によって全然違います。部活内の振る舞いも人それぞれだし、話し合いをすれば人数の分だけ意見は当然割れてきます。しかしそんな中に生活していると、世の中にはたくさんの人がいるんだなあと感じることができ、その人たちに囲まれている自分がうれしくなります。また、自分に足りないものを見つけることができるし、自分にないものを取り入れることで自分を成長させることができる場所でもあります。

## 2.取材散歩に行ってみて

今回の取材散歩は、7日に秋大プール、留学生会館、14日にシンエンさんの家を回りました。秋大プールに行ったときにはとても強い雨で、プールに出ることができませんでしたが、屋根の下でそこでの活動やコミュニティのことを話しました。留学生会館ではジョンさんの大切なコミュニティである家族の話詳しく聞きました。途中で家族の写真を見せてもらいました。お父さんもお母さんもやさしそうな笑顔で写っていて、家族が大切だというジョンさんの気持ちがわかった気がしました。またお兄さんは兵役に行っていて写っていなかったところから兵役制度についても少し話して、国の制度の違いに思いをはせたりしました。2日目にはシンエンさんの家に行きました。この日は初めて鉄平さんと一緒に活動しました。シンエンさんの家では今までより詳しくシンエンさんの大切なコミュニティについてお話しました。残念ながら写真をみることはできませんでしたが、今までより内容の濃いお話を聞きました。また、少し日本、中国、韓国での身の回りの風習の違いについて話に花が咲いて、いい交流ができました。

### 3.話し合い相手

私は、同じ水泳部の一年生の友人を話し相手に選びました。その友人も私と同じように日々の練習に取り組み、自分の限界に挑戦し続け、多くの仲間と切磋琢磨し充実した学校生活を送っています。またその友人は部活動内で常に輪の中心にいて、他の友人からも一目置かれるような存在です。その友人とは学部が違うため部活動に来なければなかなか話す機会もないのですが、水泳についてや友人関係についてなど様々な話をします。友人は水泳部で一番とっていいくらい水泳部とその仲間たちを愛していて、話していると時間が経つのを忘れてしまいます。そんな人と水泳部についてもっと語り合いたいと思ったので今回話し合い相手に選びました。

### 4.話し合い結果

改めて話し合いを申し込むと、友人は少し照れくさそうでした。しかし話し合いを始めると友人は真面目に話し出しました。今回は今の水泳部というコミュニティについてどう思っているのかと、これからどんなコミュニティにしていきたいかの2つについて深く聞いてみました。友人も自分と同じく自分になくはないコミュニティだと話しましたが、その理由は少し違い、自分が自分でいられる場所だからだと話しました。自分と正面から向き合って、受け入れてくれる仲間がたくさんいる水泳部では自分の意見を素直に出すことができるし、その仲間を信頼して、失敗を恐れずに何事にもチャレンジできるんだと話す友人の目はとても真剣で、普段はなかなか目にする事のない表情をしていたので、水泳部というコミュニティがいかに友人の中で大きいものなのかを感じることができました。堅苦しい雰囲気ではないけれど、そこそこ真面目な空気の中、続いての話題に入りました。水泳部というコミュニティをどうしていきたいか。友人は、自分が仲間の存在があるおかげで素の自分でいられるように、コミュニティ内のすべての人が、自分を存分に出していけるようなコミュニティにしていきたいと話しました。ひとりひとりが遠慮なく意見を出し合い、時にぶつかりながら、それを乗り越えてひとつのことを達成していく、理想だといわれそうだけれど、家族のようなものにしていきたいと友人は笑顔で語ってくれました。友人がここまで水泳部についてしっかりした考えを持っているなんて思わなかったので少し言葉が出なくなり、聞く一方になってしまいましたが、この話を聞いてすごく共感したし、自分もそういうコミュニティを目指したいと思いました。友人と一緒に頑張っていこうと思います。

### 5.水泳部と私

話し合いなどを通して、なぜ自分に水泳部というコミュニティが必要なのかを考えると、それは居心地のよさがあるからなのではないかと感じました。初めにレポートを書いたとき、水泳部にはいろいろな人がいて楽しいと書きましたが、そのときはただそれだけで、漠然とした考えでした。しかし、友人と話し合いをして考えを聞いていると、今まで気が付かなかっただけで自分の普段感じていることに重なる部分が多くみられ、この考えにた

どり着きました。自分に都合のいいコミュニティだからといった居心地の良さではなく、好きなことを頑張っていられ、たくさんの友人に囲まれ、その中で意見を求められたり、悩みを打ち明けてくれたりされたときに自分を必要とされていると感じられることに居心地の良さを感じるのです。これからこのコミュニティを他の誰にとってもいるだけで気持ちのいいものにしていきたいと思います。楽しいことは共有しあい、困り事があったら手を差し伸べる。自分の考えを素直に言え、他の人はそれを水泳部のために真剣に考えてみんなで結論を出す。そうして、だれもが信頼を寄せられるようなコミュニティにしていきたいと思うし、そうすれば水泳部として大会などでの大きな結果にもつなげていけるのではないかと思います。そのためには、まず自分からそのコミュニティづくりを始めなければならないと思います。たとえば、上に挙げたことをまず自分が率先してやるだけでも、周りに影響を与え、理想とするコミュニティに近づくための一歩となると思います。今はまだ1部員にすぎませんが、同じ学年から始め、学年が上がっていくこれから長い時間をかけて、水泳部が今よりもっともっといいコミュニティになるように心がけていきたいと思っています。

## 6. 「コミュニティ」「コミュニケーション」とは何か

この授業を通して、「コミュニティ」とはそれぞれ別の価値観を持った人たちが、集まった集団のことだと考えました。授業内でグループ内外の人の紹介するコミュニティについて触れることができましたが、どのコミュニティも構成しているのは人で、たとえ気心の知れた家族といったコミュニティでさえ、全員が全く同じ価値観を持ってはいません。そこで、その別々の考えを持った人と人とをコミュニティとして繋ぎ止めておくために、「コミュニケーション」をとるのだと考えました。別々の考えや価値観を伝え、共有することで、周囲と分かり合い、コミュニティを形成、発展させていくのだと思います。

## 7. クラスについての感想

このクラスで『〇〇人』という一括りにする考えをやめて、『人』を見る」ということを最初のほうで言われ、なるほどと思いました。今までは自分も「外国人」というだけでまるで別次元の人たちのことのように考えてしまっていたが、このクラスで意識して「人」を見るようにしてみると実はみんな自分と同じ人間で、何も特別なことはないことに気がつきました。友人と楽しく騒いだり、家族と喧嘩したり、自分が経験してきたようなことを留学生の人たちも普通に経験していました。これから「〇〇人は～」というような言い方をしている人がいたら、やさしくこのことを教えてあげたいです。とても大切なことを学べてよかったと思います。